□ Wiersema J. H. & Leon B.: **World Economic Plants A Standard Reference** 749 pp. 1999. Beltsville Agricultural Research Center, Beltsville.

全世界の有用植物の目録を作り，それぞれの種類の異名，用途，分布，地方名を挙げている．この類の著書としてはUphof J. C. Th., Dictionary of Economic Plants (1968), Bakhteyev F. Kh., The World Resource of the Useful Plants (1969, ロシア語) や，種類の形態や必要な図，用途の他に民俗的なことまで含まれていて，他書には見られない豊かな内容をもつ，堀田 満他編：世界有用植物事典(1989)などがある．Uphofでは約6000種，堀田では約8500種が収録されている．この種の本では多く収録すれば良いという訳ではないが，本書では約13000種が載せられているから，他書で見られないものもかなり収録されていることになる．本書では使用する属名，種名に気を使っていて，必要な異名を載せている．そのために本書の出版前に世界の植物の科や属を纏めた著書をだしている(Gunn, Wiersema, Ritchie & Kirkbride: Families and Genera of Spermatophytes Recognized by the Agricultural Research Service, 500 pp, 1992)．本書はこれに従って科や属を決めているのである．ただ使用する属はかなり大きくきめている．したがってイタドリやソバカズラを *Polygonum* として扱うなど，日本では考えられない扱いが見られる．これは分類学者でないからしたがないことで，本書の内容とは関係がない．有用植物に関心のあるものには，基本的な著書として揃えておくべきものである． (山崎 敬)

□武内 正：**日本山名総覧** 558 pp. 1999. 白山書房．￥1,700

2.5万図に記録された山を主体に18,032件の山名が，県別，地図別にまとめて示されている．項目は山名，読み，標高，市町村名，三角点種別，地図名．このほかに登路の有無，100，200，300名山，干支に因む山名が検出できる．索引は山名のJISコード順である．名山探しや観察会の場所選びには便利だが，地名の位置さがしの目的には，とくに読みによって山を探し当てられないので，この本は折角だが使いにくい．著者は山名読みの正確を期するため，すべての関係市町村からほとんど100％回答を得るまで，質問を根気よく繰り返したということだ．だから山名の読みについては，地元の資料に基づいた「正確さ」を期待してよく，私の日本地名索引などはものの数ではない．本書では，印刷物という制約のため，すべてのデータを示すことはできないので，次にのべるフロッピー版の方が，われわれには利用価値が高いだろう．

(金井弘夫)

□武内 正：**FD版日本山名一覧「全国版」** 1999．白山書房．￥16,800.

こちらが本命である，1.4 MBのFDに圧縮されたテキストデータとして供給される．解凍すると約3 MBになるので，容量の大きい媒体にコピーしてから処理する必要がある．項目数は24項目，経度緯度（秒単位），山の別名，複数の市町村にまたがるものはそのすべて，など，工夫をこらした丹念なデータ作りである．データはコンマ区切りのテキスト形式なので，解凍後は自分の目的に応じた項目を拾ってデータベースに読み込めばよい．そうすれば，読みからでも漢字からでも検索できる．JIS漢字表にない文字は作字せずに，「木偏に単」のように説明してある．作字してしまうと移植のとき壊れるおそれがあるので，これは賛成である．白山書房(〒153-0041 目黒区駒場4-7-8 Tel.03-3485-1309) へ直接申し込むこと．中域版(北日本，関東中部，西日本版)，小域版（県別）も用意されている．FD版のサンプルは，同書房のホームページ(http://www.kt.rim.or.jp/~hakusan) で見ることができる． (金井弘夫)